

絢爛豪華 日野祭

近江商人の贅を尽くした曳山



日野祭は日野町最大の祭りで、毎年5月2日・3日の両日に馬見岡綿向(うまみおかむき)神社で行われる。この祭りの魅力や日野のことを、文献や資料館、知人に取材して得たこと、体験をお伝えしたい。

華麗な祭り

日野祭りの歴史は800年以上の伝統を持ち、日野町民に永く親しまれている。概要は5月2日の宵山で、各町内の格納庫に眠っている曳山(ひきやま)が飾りつけされ外へ出る。次の日、曳山は神社境内へと向かう。神事の後、「芝田楽」という古式ゆかしい巡行が始まる。袴姿に身を包んだ100人ほどが稚児を守って先導し、曳山の囃子に送られて神輿(みこし)、宮司、馬などの渡御(とぎよ)行列が町を進むのである。お旅所のひばり野での祭典を終えて、一行はまた神社に戻ってくる。二日間、町では華麗な絵巻物が繰り広げられる。



この日はあいにくの天気・境内に揃った曳山(写真は一部) 6年に1度 16基揃う

珍しい 重箱型曳山



日野祭りを引き立てる曳山は現存するものだけで16基ある。江戸中期〜末期に建造された約150〜200年経っている。曳山は、日野商人(近江商人)の財力に支えられて贅の限りを尽くして絢爛豪華に建造された。木彫刻・飾金具・装飾幕(見送り幕)で美しい装飾が施された。形状は重箱型と全国的に珍しいそう。特に日野最大の曳山である西大路は現在3代目で活躍し、尾張の職人たちが8年の歳月を費やし再建されたものだ。そして建造費は未だよくわかっていないが、恐らく何十億とかかる代物と推測されるだろうと祖父が話してくれた。

各町の曳山の名称

町	名	名	称
西本新越清双河今仕杉上金南岡大上	大町	路町	正仙景
大町	川町	六町	六徳軍
六町	原町	田町	香鶴
井町	出町	神町	舞鶴
野町	治町	英町	延菊
大町	本町	窪町	南社
大町	窪町	窪町	法天
大町	窪町	窪町	龍虎
大町	窪町	窪町	象



↑曳山の中から通りの民家を見る その先に棧敷窓が見える。

見所 「日野祭囃子」
はやし

曳山の巡行に欠かせない祭囃子は、笛・大太鼓・小太鼓・すり鉦の4つで演奏している。曳山の中は広く、20人ほどがこの中に10以上あるが、主に使われているのがオオマ・バカバヤシ・ヤタイといった賑やかでテンポの速い曲(滋賀県内で1番のスピード)である。思わず体がリズムを取ってしまうくなる速さだ。関東囃子に源流があるとされている、日野商人は関東を中心に商売をしていたからと言われている。また、16町全て音が違うところも見所だ。

神輿 みこし

どんな祭りにも欠かせないのが神輿だ。日野祭には神輿が3基あり、西大路・村井・大窪・松尾が担当。「上の番」・「中の番」・「下の番」と呼ばれ、正午に片道3キロ先のひばり野まで順番に担いで行く。神輿は一人基に百人(交代含む)が参加し、加しなと担げない。

町民の楽しみ方

日野ならではの祭景色として、特有の棧敷(さじき)窓がある。これは、祭りの家の中から見られるような仕組みの窓である。祭りをしながら座敷で祭り料理を楽しむ。

日野祭名物
「鯛そうめん」
は日野商人が天然の鯛を持ち帰り、祭りを祝った伝統

筆者体験談

私は、神輿と祭囃子の2つを高校1年から1年交代でやっている。祭囃子の担当楽器は大太鼓である。最初は全くリズムを合わせることが出来なかった。しかし、1ヶ月猛練習してやっと出来るようになった。当日は無事に終える事ができた。「練習してきた良かったな」と思った瞬間だった。なので、今も練習に参加している。神輿かきの練習は無かったが、衣装の準備が大変だった。自分ではどうやって着てよいか分からなかった。当日、何とか4キロメートルの距離を担いで帰ってきた。とても充実した日となった。

日野祭は日野町自慢のイベントで観光客も多く、3万2千人も集まるらしい。他にも火振り祭や氏郷祭など様々のイベントがあるので、ぜひ来てみて欲しい。(星)



↑見事な見送り幕

ギンギリ廻し

曳山は格納庫から一直線で境内にいけないので方向転換が必要となる。曳山の前後どちらかの車輪をテコの原理で浮かし、中央にある心棒に当て木を差し込んで曳山全体を数センチ上げてから一気に回転させる方法を使っている。この方法は「ギンギリ廻し」と呼ばれている。1本の棒で5トン以上を支えているため「フラフラして倒れそう」と見ている方はハラハラするが、見所のひとつでもある。残念ながら、現在の西大路曳山は心棒が割れるという致命傷を負っているため、昨年からジャッキを使って方向転換を行なっている。



↑ギンギリ廻し



↑せいら祭衣装



↑神輿の出発の様子